

(広報資料)

令和3年度 交通事業予算概要

令和3年2月10日
京都市交通局

担当: 交通局 企画総務部 財務課(863-5080)

自動車運送事業

1 予算概要

過去最大の赤字予算(H11:▲62億円)
に匹敵する赤字を計上

○ 経費節減等に努めるも、新型コロナウイルスによる運賃収入の激減により、経常損益は▲56億円もの大幅な赤字

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様数の大幅な回復は見込めず、運賃収入は前年度に比べ▲60億円もの減収を見込まざるを得ない極めて厳しい状況
- ・ 厳しい経営状況を踏まえ、日々の安全運行や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための予算を確保しつつ、あらゆる事業を点検し、緊縮予算を編成
- ・ この結果、経常損益は▲56億円もの大幅な赤字、また、これまで積み上げてきた未処分利益剰余金や資金剰余額を使い果たし、累積赤字へと転落し、累積資金不足が生じる見込み

○ 市民の足を守るために

- ・ 危機的な経営状況を踏まえ、経常経費の節減はもとより、御利用状況に応じたダイヤ編成による人件費・経費の節減、均一運賃区間の全系統への前乗り後降り方式の導入の拡大やバス待ち環境の新規整備を延期。また、新型コロナウイルス感染症の拡大以前からの課題であった各種割引乗車券等の抜本的見直しに着手するとともに、全庁体制はもとより、民間事業者とも連携した公共交通機関の利用促進のほか、国に対する抜本的な支援の要望など、今できる取組を着実に実施
- ・ 市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり、「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて、令和3年度中に、安定経営に向けた中長期の経営計画を策定

(1) 予算の主要数値

	令和2年度	令和3年度	増減
在籍車両数	822両	816両	▲6両
走行キロ数 〔1日平均〕	87.8千km	86.7千km	▲1.1千km
経常損益	▲8億円	▲56億円	▲48億円
未処分利益剰余金 / ▲累積欠損金	59億円	▲43億円	▲102億円
資金剰余額 / ▲累積資金不足	66億円	▲30億円	▲96億円
年度末企業債残高	74億円	109億円	35億円

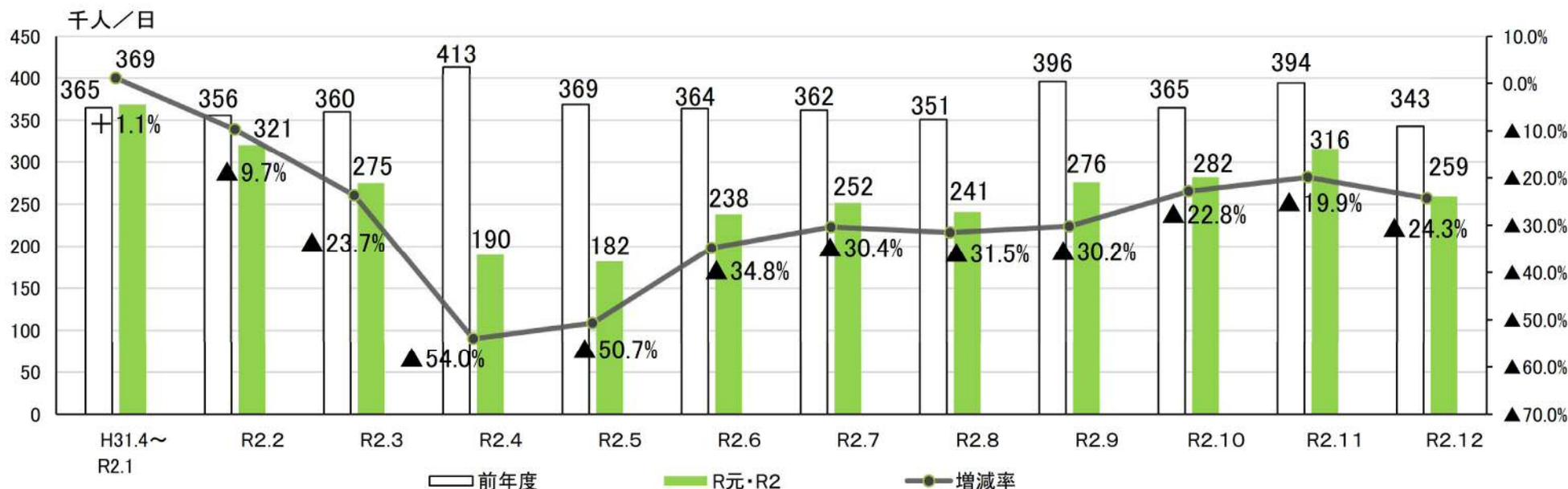
(2) 市バス 1日当たりのお客様数内訳

(単位：千人/日，%)

	令和2年度		令和3年度 B	増減 B-A=C	増減率 C/A
	予算 A	見込			
市バス全体	372	245	268	▲104	▲28.0%
うち定期	95	71	77	▲18	▲18.9%
うち通勤	71	63	63	▲8	▲11.3%
うち通学(大学)	17	5	8	▲9	▲52.9%
うち定期外	198	97	115	▲83	▲41.9%

※市バス・地下鉄合計 ②予算：781千人/日→③予算：569千人/日

(参考) 1日当たりのお客様数の推移



2 主要事項

(1) 経営改善のための取組

ア コスト削減・事業の見直し

(ア) 経常経費の節減

- ・ 御利用状況に見合ったダイヤ見直し(▲6両減車)に伴う車両修繕費等の縮減や市バス車両に係る特別清掃の見直し, 大型二種免許取得費用支援金の支給方法の変更に伴う費用の平準化など
- ・ 観光客の減少に伴う“おもてなしコンシェルジュ”の活動時間の縮小など

(イ) 人件費の抑制

- ・ 御利用状況に見合ったダイヤ見直しに伴う職員数の適正化
- ・ 職員の給与減額措置

給料の額について, 以下の減額措置を実施

- ・ 局長級▲6.0%, 部長級▲5.5%, 課長級▲5.0%
(令和3年4月～令和4年3月)
- ・ 課長補佐・係長級▲3.0%, 係員(3級及び2級)▲2.5%
(令和3年7月～令和4年3月)

- ・ 時間外勤務の縮減 など

(ウ) 均一運賃区間の全系統への前乗り後降り方式の拡大の延期

(エ) バス待ち環境の新規整備の延期

(オ) バス車両購入費の平準化

(リースによるバス車両の調達, 車両購入計画の見直し)

- ・ リースによるバス車両の調達: 令和3年4月から新たに2両導入
- ・ 車両購入計画: 【令和3年度】経営ビジョン60両→予算56両

イ 収入増加・利用促進策

(ア) 各種割引乗車券等の抜本的な見直し【新規】

- ・ 企画乗車券の価格適正化(令和3年10月実施)
- ・ 各種割引乗車券等からポイントサービスへの転換(令和5年4月実施)
※「トラフィカ京カード」及び「昼間回数券」は令和3年10月に発売停止

(イ) 高雄地域の公共交通の利便性向上に向けた取組(令和3年3月実施)

- ・ 高雄地域への均一運賃区間の拡大
- ・ 8号系統の柵ノ尾への延伸
- ・ 西日本ジェイアールバスとの「バス一日券」及び「地下鉄・バス一日(二日)券」の共通利用化, 「市内中心フリー」定期券の共通利用範囲の拡大

(ウ) チーム「電車・バスに乗るっ」の参画事業者, 他社局と連携した公共交通機関を安全・安心に御利用いただくための取組や利用促進に向けた取組

(エ) 市バスの運行情報のオープンデータ化を目指したシステムの構築【新規】

時刻表, バス停留所の緯度経度情報等について, 国土交通省が定める標準的なバス情報フォーマットとして整備し, 令和5年度にオープンデータ化を目指す。

ウ お客様の御利用状況等に応じたダイヤ編成(令和3年3月実施、車両822→816両)

(ア) お客様の御利用状況に応じたダイヤ編成

○ 御利用状況に見合ったダイヤの見直し等

- ・ダイヤの見直し(100号,101号,5号,59号,京都岡崎ループ等)
- ・系統の統合(110号系統を86号系統に統合)

○ 輸送力の再配分による利便性向上

- ・洛西ニュータウン内を循環し、阪急洛西口駅及びJR桂川駅へ接続する特西4号系統を増便

(イ) 路線・ダイヤの充実

○ まちづくりの進展に合わせた利便性の向上等

- ・北泉通の整備完了に伴う左京区総合庁舎へのアクセス向上
- ・上賀茂神社前広場の整備に伴うバスの乗り入れ
- ・三条通(三条大橋西詰～河原町通)の歩道拡幅に伴うバス運行の分散化

○ 民間バス事業者と連携した取組の推進

- ・高雄地域への均一運賃区間の拡大に合わせた8号系統の柵ノ尾への延伸【再掲】
- ・西日本ジェイアールバスとの「バス一日券」及び「地下鉄・バス一日(二日)券」の共通利用化【再掲】
- ・通学アクセスの充実を踏まえた快速立命館号系統のダイヤ見直し

○ 地域主体のMMと一体となった路線・ダイヤの拡充

- ・52号系統の本格運行化(上京区仁和学区)

(ウ) 路線・ダイヤの在り方の検討

市バス旅客流動調査及びお客様アンケート調査の実施

令和2年度予算の再計上, 令和3年10月頃実施予定

(2) 安全運行の推進

ア 安全性確保が必要なバス停留所の安全対策

イ 安全運転訓練車や外部機関を活用した事故防止研修の継続的な実施

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

車両消毒, 車内換気, お客様への周知等を徹底するとともに, 出勤前出勤後の検温など, 交通局職員の感染防止を引き続き徹底

(4) 中長期の経営計画の策定

「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて, 安定運営に向けた中長期の経営計画を策定

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		R3年度予算(A)		R2年度予算(B)		差引増▲減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的 収 支	営 業 収 益	174	38	234	87	▲ 60	49
	う ち 運 送 収 益	164	41	224	49	▲ 60	08
	営 業 外 収 益	3	80	4	53	▲	73
	収 入 計	178	18	239	40	▲ 61	22
	営 業 費 用	229	41	238	57	▲ 9	16
	う ち 人 件 費	93	49	95	68	▲ 2	19
	う ち 経 費 (管 理 の 受 委 託 ・ 燃 料 費 ・ 修 繕 費 等)	116	40	123	54	▲ 7	14
	う ち 減 価 償 却 費 等	19	52	19	35		17
	営 業 外 費 用	2	13	6	22	▲ 4	09
	支 出 計	231	54	244	79	▲ 13	25
経 常 損 益		▲ 55	60	▲ 8	13	▲ 47	47
純 損 益		▲ 55	60	▲ 8	13	▲ 47	47
未 処 分 利 益 剰 余 金 / ▲ 累 積 欠 損 金		▲ 42	66	58	58	▲ 101	24
資本的 収 支	収 入	25	50	31	15	▲ 5	65
	う ち 企 業 債 金	25	05	30	21	▲ 5	16
	う ち 補 助 金		-		45	▲	45
	支 出	38	44	41	79	▲ 3	35
	う ち 建 設 改 良 費	25	05	30	67	▲ 5	62
	う ち 企 業 債 償 還 金	12	89	10	62		27
差 引		▲ 12	94	▲ 10	64	▲ 2	30
資 金 剰 余 額 / ▲ 累 積 資 金 不 足		▲ 30	01	65	53	▲ 95	54
年 度 末 企 業 債 残 高		109	32	74	27	35	05

※経常損益，純損益，未処分利益剰余金及び累積欠損金は税抜額であり，経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R3年度予算の財政健全化法における資金不足額は特別減収対策企業債の発行(30億1百万円)により生じない。

高速鉄道事業

1 予算概要

平成29年度(▲23億円)以来の赤字予算

○ 経費節減等に努めるも、新型コロナウイルスによる運賃収入の激減により、経常損益は▲58億円もの大幅な赤字

- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により、お客様数の大幅な回復は見込めず、運賃収入は前年度に比べ▲82億円もの減収を見込まざるを得ない極めて厳しい状況
- ・ 厳しい経営状況を踏まえ、日々の安全運行や新型コロナウイルス感染拡大防止対策のための予算を確保しつつ、あらゆる事業を点検し、緊縮予算を編成
- ・ この結果、経常損益は▲58億円もの大幅な赤字、また、累積資金不足が過去最大を更新する見込み

○ 市民の足を守るために

- ・ 危機的な経営状況を踏まえ、経常経費の節減はもとより、毎週金曜日の終電延長(コキン・ライナーの運行)の休止による人件費・経費の節減、烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置のための車両改造等の延期。また、新型コロナウイルス感染症の拡大以前からの課題であった各種割引乗車券等の抜本的見直しに着手するとともに、全庁体制はもとより、民間事業者とも連携した公共交通機関の利用促進のほか、国に対する抜本的な支援の要望など、今できる取組を着実に実施
- ・ 市民の暮らしとまちを支える公共交通として、将来にわたり「市民の足」としての役割をしっかりと果たせるよう、「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて、令和3年度中に、安定経営に向けた中長期の経営計画を策定

※地下鉄事業は、令和2年度決算で財政健全化法に基づく経営健全化団体となる可能性が高く、議会の議決を経て経営健全化計画を策定する予定

(1) 予算の主要数値

	令和2年度	令和3年度	増減
在籍車両数	222両 [37編成]	222両 [37編成]	—
走行キロ数 〔1日平均〕	58.0千km	57.9千km	▲0.1千km
経常損益	19億円	▲58億円	▲77億円
累積欠損金	3,007億円	3,146億円	139億円
有利子負債	3,678億円	3,743億円*	65億円
累積資金不足	293億円	443億円	150億円
年度末企業債等残高	3,385億円	3,437億円	52億円

※累積資金不足及び年度末企業債等残高の双方に特別減収対策企業債残高が含まれるため合計は一致しない。

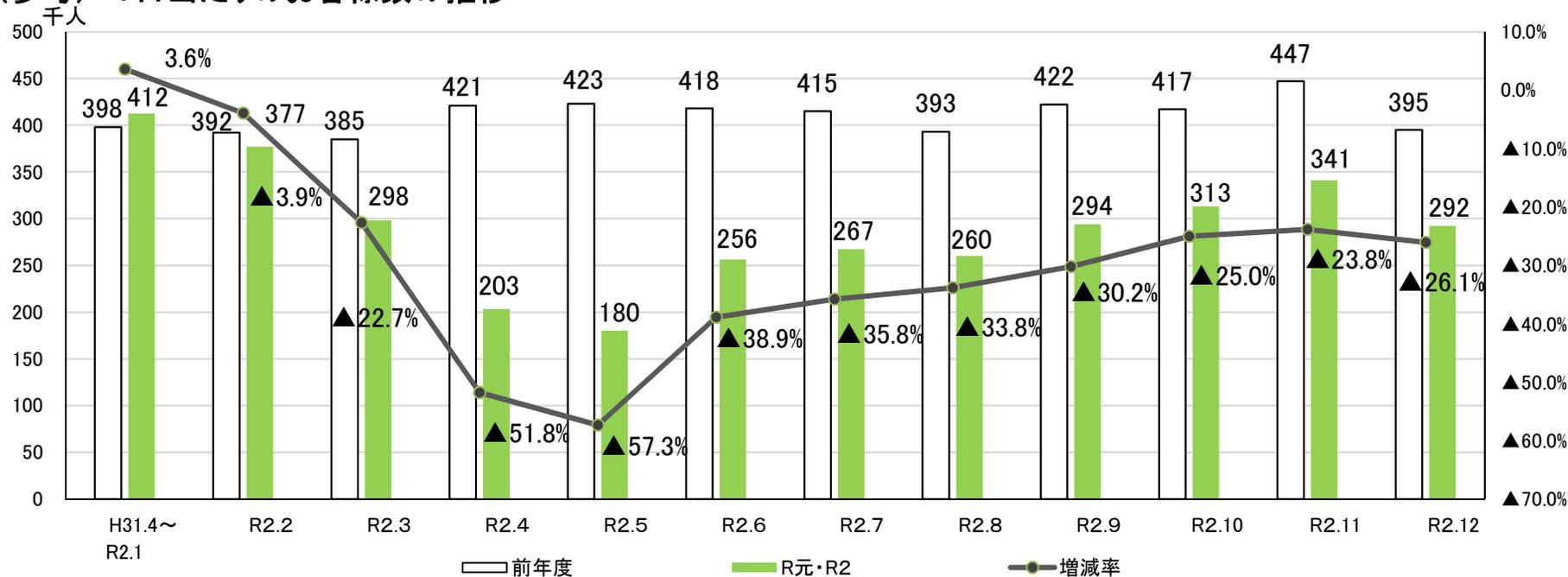
(2) 地下鉄 1日あたりのお客様数内訳

(単位：千人/日, %)

	令和2年度		令和3年度	増減 B-A=C	増減率 C/A
	予算A	見込	B		
地下鉄全体	409	265	301	▲108	▲26.4%
うち定期	167	124	139	▲28	▲16.8%
うち通勤	108	97	97	▲11	▲10.2%
うち通学(大学)	41	15	23	▲18	▲43.9%
うち定期外	217	117	138	▲79	▲36.4%

※市バス・地下鉄合計②予算：781千人/日→③予算：569千人/日

(参考) 1日あたりのお客様数の推移



2 主要事項

(1) 経営改善のための取組

ア コスト削減・事業の見直し

(ア) 経常経費の節減

- ・ IC・磁気併用の改集札機のIC専用化や券売機の設置台数の見直しによる保守管理費の削減 など

(イ) 人件費の抑制

- ・ 職員の給与減額措置

給料の額について、以下の減額措置を実施

- ・ 局長級▲6.0%、部長級▲5.5%、課長級▲5.0%
(令和3年4月～令和4年3月)
- ・ 課長補佐・係長級▲3.0%、係員(3級及び2級)▲2.5%
(令和3年7月～令和4年3月)

- ・ 時間外勤務の縮減 など

(ウ) 烏丸線全駅への可動式ホーム柵設置に向けた車両改造の延期

(エ) 「運行情報等お知らせモニター」設置など安全安心に直結しない事業の延期

(オ) 毎週金曜日の終電延長(コトキン・ライナーの運行)の休止

イ 収入増加・利用促進策

(ア) 各種割引乗車券等の抜本的な見直し【新規】

- ・ 企画乗車券の価格適正化(令和3年10月実施)
- ・ 各種割引乗車券等からポイントサービスへの転換(令和5年4月実施)

※「トラフィカ京カード」及び「昼間回数券」は令和3年10月に発売停止

(イ) チーム「電車・バスに乗るっ」の参画事業者、他社局と連携した公共交通機関を安全・安心に御利用いただくための取組や利用促進に向けた取組

昭和56年(1981年)烏丸線(北大路駅～京都駅間)の運行開始

(ウ) 地下鉄開業40周年事業の実施(地下鉄烏丸線新型車両の見学会・試乗会を含む)【新規】

(2) 安全対策等の推進

ア 安全対策

令和4年度供用開始予定

(ア) 北大路駅への可動式ホーム柵の設置

(イ) 烏丸線新型車両の1編成目の営業運行開始

令和3年度:1編成
令和4～7年度:各2編成

(ウ) 烏丸線ホーム車掌用モニター設備の増設

令和3年度(国際会館駅1,2番線,鞍馬口駅1番線)全駅設置完了

(エ) 駅出入口への止水板の設置による浸水対策の強化

【令和3年2月補正】

令和3年度実施: 烏丸御池駅・四条駅・五条駅(設計), 九条駅・十条駅(工事)
※国の令和2年度第3次補正予算を活用(令和3年2月補正)

イ 省エネ対策

- ・ 設備更新に合わせた地下鉄駅舎等照明のLED化の推進

烏丸線: 国際会館駅・松ヶ崎駅(設計), 烏丸線トンネル(工事)
東西線: 三条京阪駅・二条駅(設計), 柳辻駅・二条城前駅(工事)

(3) 新型コロナウイルス感染症対策

車両消毒, 車内換気, お客様への周知等を徹底するとともに, 出勤前出勤後の検温など, 交通局職員の感染防止を引き続き徹底

(4) 中長期の経営計画の策定

「市バス・地下鉄事業経営ビジョン」策定以降の経営環境の変化を踏まえて, 安定運営に向けた中長期の経営計画を策定
(地下鉄事業は, 令和2年度決算で財政健全化法に基づく経営健全化団体となる可能性が高く, 議会の議決を経て経営健全化計画を策定する予定)

3 財政状況（前年度予算からの増減）

（税込額）

区 分		R3年度予算(A)		R2年度予算(B)		差引増△減(A-B)	
		億	百万円	億	百万円	億	百万円
収益的収支	営 業 収 益	233	57	318	60	▲ 85	03
	うち運輸収益	208	84	290	86	▲ 82	02
	営 業 外 収 益	51	87	54	72	▲ 2	85
	うち一般会計繰入金	20	73	23	27	▲ 2	54
	収入計	285	44	373	32	▲ 87	88
	営 業 費 用	289	52	288	83		69
	うち人件費	60	06	61	54	▲ 1	48
	うち経費（動力費・修繕費等）	90	47	91	06	▲	59
	うち減価償却費等	138	99	136	23		2 76
	営 業 外 費 用	44	45	56	45	▲ 12	00
支出計	333	97	345	28	▲ 11	31	
	経 常 損 益	▲ 57	51	18	88	▲ 76	39
	現 金 収 支	46	74	120	81	▲ 74	07
特 別 損 益			65		0		65
純 損 益		▲ 56	86	18	88	▲ 75	74
▲ 累 積 欠 損 金		▲ 3,146	43	▲ 3,006	68	▲ 139	75
資本的収支	収 入	305	87	301	76		4 11
	うち企業債	261	71	260	12		1 59
	うち補助金	9	32	9	12		
	うち出資	31	94	32	36	▲	42
	うち固定資産売却代金	2	83		0		2 83
	支 出	434	69	427	49		7 20
	うち建設改良費（割賦購入費除く）	98	83	101	97	▲ 3	14
うち企業債等償還金	296	25	286	05		10 20	
差 引	▲ 128	82	▲ 125	73	▲ 3	09	
有 利 子 負 債		3,742	82	3,677	42		65 40
累 積 資 金 不 足		443	25	292	62		150 63
年 度 末 企 業 債 等 残 高		3,437	39	3,384	80		52 59

※経常損益、現金収支、特別損益、純損益及び累積欠損金は税抜額であり、経常損益は収益的収入と支出の差とは一致しない。

※R3年度は、累積資金不足及び年度末企業債等残高の双方に特別減収対策企業債残高が含まれるため、合計は有利子負債と一致しない。

※R3年度予算の財政健全化法における資金不足額は125億88百万円となり、営業収益(233億57百万円の税抜額213億88百万円)に占める割合である資金不足比率は58.9%(経営健全化基準:20%)となる。